

会 議 録

会議の名称	令和6年度第3回川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子ども・子育て会議
開催日時	令和6年8月9日(金) 14時00分 開会 ・ 16時00分 閉会
開催場所	川越市役所 本庁舎7階 第1・第5委員会室
議長(委員長・会長)氏名	平野方紹会長
委員出欠状況	出席：13名 鈴木副会長、今野委員、松本委員、小寺委員、影山委員、井守委員、山田委員、山本委員、堀口委員、鈴木友子委員、福木委員、春原委員 欠席：6名 中田委員、有光委員、田村委員、長峰委員、榎本委員、近藤委員
傍聴人	0人
事務局職員名	こども未来部長、こども未来部副部長(こども政策課長)、こども育成課長、こども家庭課長、こども家庭課副課長、保育課長、保育課副主幹、母子保健課長、母子保健課副主幹、療育支援課長、児童発達支援センター所長、教育財務課長、教育センター所長、こども政策課主査
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) こども等への意見聴取の実施について (2) こどもの居場所に関するオンラインアンケート調査について (3) 川越市保育所等の待機児童の状況について 4 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 川越市こども計画の策定について 5 その他 6 閉会

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・第2回分科会での意見について . . . (資料1) ・川越市の子どもを取り巻く状況 (関連する基礎データ) . . . (資料2) ・こども等への意見聴取の実施について . . . (資料3) ・こどもの居場所に関するオンラインアンケート調査について . . . (資料4) ・令和6年度保育所等の利用待機児童について . . . (資料5-1) ・川越市保育所等の待機児童の状況について . . . (資料5-2) ・国の方針及び「川越市こども計画策定に向けた調査」を踏まえた次期計画へ新たに掲載する事業等の考え方 . . . (資料6) ・川越市こども計画の施策体系案に基づく事業一覧 (案) . . . (資料7) ・施策体系 (現行計画と次期計画の比較) (案) . . . (資料8)
会議要旨	<p>議題に入る前に、児童発達支援センター利用保護者への意見聴取を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センター利用保護者2名に対し、事前に委員より提出のあった質問に基づき、質疑応答を行った。保護者より出た意見については、今後の施策の検討に活用させていただく旨説明した。 <p>3 報告</p> <p>(1) こども等への意見聴取の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3校、中学校3校、高等学校1校、特別支援学校1校、大学4校において実施した、こども等への意見聴取の結果について事務局より報告があった。 <p>(2) こどもの居場所に関するオンラインアンケート調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの居場所に関して、公立保育所利用園児の保護者を対象に実施したオンラインアンケート調査の結果について事務局より報告があった。 <p>(3) 川越市保育所等の待機児童の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、川越市保育所等の待機児童の状況について、事務局より報告があった。 <p>4 議題</p> <p>(1) 川越市こども計画の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議の結果、川越市こども計画の施策体系については承認され、事務局は今後の作業を進めることとなった。また、事務局より施策体

	<p>系に紐づく各種事業一覧についても説明があり、種々意見交換を行った。</p> <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none">・事務局より、第4回分科会の開催日時は10月11日（金）であり、会場はウエスタ川越の南公民館を予定している旨案内した。 <p>6 閉会</p>
--	---

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>※本資料では以下のように表記する。 川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 (川越市子ども・子育て会議) → 分科会</p>
会長	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>本日の会議は2部構成となっている。前半は、次期計画の策定に向けて川越市の現状について学ぶため、障害のあるお子さんの保護者から直接話を伺うとともに、市が行ったこども・若者の意見聴取の報告を受ける。後半は、川越市こども計画の策定についてである。前回の分科会でいただいた貴重な意見をもとに、骨子を修正したので、具体的な作業へ向けて、本日は承いいただきたいと考えている。</p>
会長	<p>[児童発達支援センター利用保護者への意見聴取]</p> <p>本日は、児童発達支援センターを利用されている保護者2名に来ていただいている。委員から事前に頂戴した5つの質問について、私が代表して、この場で伺いたいと思う。</p> <p>(事務局より保護者2名の紹介。便宜上、保護者A、保護者Bと記載)</p>
会長	<p>質問①</p> <p>「保護者に対する様々なケア（支援やフォロー）は十分と感じますか。その理由と、十分でない場合、必要と感じる支援内容を教えて下さい。」</p>
保護者A	<ul style="list-style-type: none"> ・私の息子はダウン症である。ダウン症は障害のレベルがさまざまであるが、保護者に対するケアは、私は十分だと感じている。ただ、これは障害の程度によって大きく変わるものだと思う。私自身は育てることに対してそこまで苦に感じていない。息子には健常の姉が一人いるが、姉とそこまで変わらないと思う。川越市から受けている支援に関して、私は十分だと思っている。 ・ただこれは私個人の意見であり、他のお母さんに聞くと全く違うという方もいると思う。私個人の意見としては、通っているセンター等で、十分フォローや手厚いサポートをしていただいているので、十分だと感じている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
保護者B	<ul style="list-style-type: none"> ・私の息子は医療的ケア児で、現在、川越市児童発達支援センターに通園し、来年の4月からは特別支援学校に進学予定である。これまでの医療ケアとしては、入院中は人工呼吸器と人工肛門をつけており、在宅ケアになってからは、経鼻経管栄養とてんかん発作のための服薬管理を行っている。 ・このような中、保護者に対する支援は十分だと感じているかという質問に対して、私は親の就労支援が十分ではないと感じている。私の周りでも、こどもが生まれてから障害がわかり、預け先が見つからずに職場復帰できず、育児休暇中に退職せざるを得なかったという家庭が多くある。 ・肢体不自由児や医療的ケア児とその家族にとっては、療育と保育のどちらか一つではなく、両方が必要だと思う。現在、療育施設として川越市内の未就学児の受け入れ先は、川越市児童発達支援センターと民間の事業所「そらいろ」の2か所のみである。 ・川越市児童発達支援センターは利用時間が10時～15時で、夏休み等の長期休暇もある。入園後は慣らし保育と慣らし看護で保護者の付き添いが一か月以上必要になる場合もある。このようなことから、働く親にとっては、なかなか仕事との両立は難しいと感じる場面が多々ある。そのため、私は川越市児童発達支援センターには、療育と保育の両方の機能を兼ね備えてほしいと考えている。親の就労等で保育が必要な子ども達には、保育園と同様の保育標準時間での預かりを可能にしてほしい。 ・また、医療的ケア児の親の視点で言うと、一番安心して子どもをお願いできるのは、川越市児童発達支援センターであるが、保護者のニーズもさまざまである。こどもの障害の程度によってもさまざまだが、通園先は自宅の近くがいいという家庭もあれば、既に兄弟が通園している園がいいという家庭もある。また、健常の子ども達との集団生活を望むので一般の保育園を希望する家庭も多くある。そのため、保育園や保育ステーションと連携して、障害がある子ども達の受け皿を一つに限定せず、柔軟な対応をとってもらいたい。
会長	<p>質問②</p> <p>「現在足りていないと感じる支援(プログラム)はどのようなものですか。また、逆に現存の施設や制度で良かったと思えるものがありましたら教えてください。」</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
保護者B	<ul style="list-style-type: none"> ・まず足りていないと感じる支援だが、通園・通学支援である。現在、在宅酸素や気管切開、吸引等が必要な医療的ケア児はセンターの通園バスも、特別支援学校の通学バスも利用することができない。小学校に入学したら福祉タクシーを利用して、看護師さんと共に登下校できるサービスがあるが、今年度利用回数が大幅に削減されてしまい、週1回程度しか利用ができていないと聞いている。また、利用回数の見直し以外にも、看護師を探すことが難しいという声もあるので、川越市と学校が協力して、看護師を派遣してくれる事業所探しを支援してくれると助かる。 ・もう一つ、既存の制度と並行して、医療的ケア児専用の通園・通学車両の運行の検討をお願いしたい。東京都では既に平成30年度から医療的ケア児専用通学車両の運行を実施し、ガイドラインも制定されている。特別支援学校は県立にはなるが、埼玉県や近隣の市町村と連携して、川越市においても、実態に即したガイドラインを制定・運用してほしい。 ・最後に、既存の施設や制度で良かったものとして、息子が利用している川越市児童発達支援センターと民間の事業所である「そらいろ」である。「そらいろ」では、人工呼吸器をつけているこどもでも、自宅の前まで送迎してくれるのでとても助かっているという声も聞く。他には、埼玉医大に隣接している医療型障害児入所施設「カルガモの家」の特定短期入所（おひさまルーム）で、こどもを日中に一時預かりしてもらっており、こちらでは預かり時間が長いことや、土曜日の預かりも可能なので、非常に助かっている。あとは、居宅介護も利用している。
保護者A	<ul style="list-style-type: none"> ・息子は、療育手帳のABCのうち、AとBの境であるいわゆるグレーゾーンのB判定だが、B以下だと紙おむつの支給がない。4歳になってもまだオムツがとれておらず、センターに預けている時は、トイレトレーニングをしてくれているが、漏れてしまうことも多く、頻繁におむつを替えてくれる。家とセンターと両方でおむつを使用しているが、息子はB判定なのでおむつを支給されていない状況。 ・そのうちA判定になるのではないかと思うが、3歳で判定をもらうと、明らかに遅れている場合を除いてほしいB判定になるように感じる。ただ、グレーゾーンのこども達もおむつが必須だということを皆さんに理解いただき、B以下のこどもにもおむつを支給していただけると助かる。 ・また、こどもの食事の形態だが、ミキサーで細かくし、とろみをつける離乳食を長い期間、作る必要がある。健常で生まれてくれば離乳食期は短く、1年程度で大人と同じ形態になると思う。だが、息子は4歳だが、

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
会長	<p>まだ離乳食中期の形態でご飯を食べている。作るのが大変なので、まとめて半日以上かけて作るが、それでも一週間分程度にしかならない。また、夏の時期だと、冷凍とはいえ、暑さでの傷みがやはり不安なので市販の離乳食を買った方が安全であるため、そのように対応しているが、お金がかかる。離乳食に関しても、多少なりとも援助があるととても助かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私が感じている良い面は、今までは市外で発生した医療費を一度窓口で支払って、後日まとめて川越市に請求していたが、制度が広がり、埼玉県内であれば窓口負担がなくなったことが本当に助かっている。障害に関して専門的な医者が市内にいないため、どうしても市外の病院がメインになる。毎月一か月分の医療費の申請を市役所で行うことがとても大変だったので、それがなくなって本当に感謝している。 <p>質問③</p> <p>「今、困っていることがありましたら教えてください。また、困っていることがある場合、どのような支援やサービスがあれば良いと思いますか。」</p> <p>質問内容が重なっているため、すでにお話いただいているかと思うが、追加で何かあればお話しいただきたい。</p>
保護者B	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていることは、一時預かりの場所やレスパイトケアを受けられる施設がないことである。私の息子には一時預かりの場所はあるがレスパイトケアを受けられる施設はない。医療的ケアの状況によっては、その両方がないということも達もいる。 ・先ほど話した「カルガモの家」のおひさまルームでは、特定短期入所を実施しており、医療的ケアが必要な原則 18 歳までのこども達が利用できる。ただ、そこでは、重症心身障害のこども達が多く通っているため、さまざまな医療機器があり、安全面の観点から、動くことができる医療的ケア児の受入れはしていない。そのため、動くことはできるが、肢体不自由で思うように動くことができない、歩くことができないといったこども達の一時預かり場所や、レスパイトケアの施設が必要だと感じている。 ・また、昨年、さいたま市に、医療的ケア児の一時預かりサービスを提供する医療的ケア児保育支援センター「すまいるスポットさいたま」がオープンした。未就学児が対象ではあるが、このような受け入れ先を川越市にも設置してほしいと思う。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
保護者A	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていることは、出先のおむつ替え台が小さいことである。台は、利用することが想定される平均的な年齢にあわせて作られているので、2歳児くらいまでなら寝そべることができる大きさだと思う。しかし、医療的ケアが必要だったり、障害があったりすると、体が大きくなっても自分で排泄を行うことはなかなか難しく、おむつが取れるのも個人差はあるが、やはり遅いと思う。そのため、体が大きくなったこどものおむつ替えをする際に、寝かせておむつを替えるには、足が台からはみ出てしまう等、安全面で心配なときがある。 ・こどもをおむつ台に立たせて替えられれば良いが、そもそもおむつ台の数が少なく、こどもが大便をしている場合等、待っているのも辛く感じることもある。そのため、多目的トイレを探すものの、そこに備え付けてあるベッドも乳児用の小さいものが多い。 ・そのため、多目的トイレや立って替えられるおむつ台を増やしてもらい、おむつ台のサイズを大きくしてもらい等、可能であればお願いしたい。 <p>質問④</p>
会長	<p>「コミュニティの必要性を感じますか。必要と感じる場合、どのようなコミュニティがあれば良いと思われますか。」</p>
保護者A	<ul style="list-style-type: none"> ・必要だとは思いますが、恐らく存在しているとは思いますが、どうやって探したらいいのかわからない。こどもが生まれた時がちょうど新型コロナウイルス感染症が蔓延している時期だったので、退院した頃には様々な制限があった。「いもっこの会」を通じたダウン症のこどもを持つ親との交流に関しても、乳幼児期はコロナで開催されなかったため、そのコミュニティを作ることができないまま、結局、現在に至っている。 ・同じ障害を持つこどもの親御さんと話をし始めたのは、支援センターに通い始めてからである。今後のことも知りたいので、先輩ママの子育て論や、こんなことをしたらよかったなど、リアルな話を聞きたいと思っている。そのような場所に、もっとオープンに誰でも参加できるような仕組みがあれば良いと思う。今は、前日までに申し込む必要があったり、日付が決まっていたりするので、なかなかうまく参加できていない。もう少し日数が増えるなど、柔軟に参加できるようになれば良いと思う。
保護者B	<ul style="list-style-type: none"> ・私の周りの医療的ケア児は、埼玉医大や埼玉県立小児医療センターに通院しているこどもが多い。私の息子も埼玉医大で生まれてから NICU、GCU、小児科にずっと入院していたが、退院してから周りの人達との関

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
会長	<p>係が希薄になって、社会から離れた感じがしたので、川越市、埼玉医大、埼玉県立小児医療センターでつながるコミュニティがあればよいと思う。あとは、きょうだい児の保護者が抱える悩みや不安を共有できるような場があってもいいと思う。</p> <p>質問⑤</p> <p>「お子さんが小学校に入学するにあたり、不安に感じられていることがありましたら教えてください。また、その先の進学、就労等の将来について不安に感じられていることがありましたら、併せて教えてください。」</p>
保護者 B	<ul style="list-style-type: none"> ・息子はもうすぐ小学校に入学するが、医療的ケア児は、入学後に親の付き添いが必須である。そして、その期間がとても長いと聞いている。医療的ケアの内容によっては、親の付き添いが3か月以上必要で、その後も学校内外での待機が必要となる場面がある。そして、学校内でできる医療行為も限定的で、例えば、胃ろうも水分はできるがペースト食はできない、呼吸器を付けての吸入ができない等の制限がある。そのようなケアが必要な子ども達は毎日親が付き添いをしているのが現状である。このような状況で、なかなか親も就労できず、経済的な負担が大きいと思う。 ・また、放課後等デイサービスについても、医療的ケア児の受け入れが可能な施設が市内に1か所しかない。その事業所も1日の利用人数が5名と少ないので、利用希望日に利用できないとか、年度によってはそもそも利用できないといったこともある。そのため、川越市内に住んでいる障害のある子どもの誰もが利用できるような公立の放課後等デイサービスの設置を希望する。イメージとしては、今の児童発達支援センターである。また、これから新しくそのような事業所を立ち上げたいという方々に対して、市としての力添えもお願いしたい。
保護者 A	<ul style="list-style-type: none"> ・息子はまだ年中なので、まだ少し先の話にはなるが、来年の今頃には進学について考えなければならぬと考えている。正直、何がベストなのかわからない。子どもと意思疎通が難しいので、本人がどうしたいのかわからず、何となくでしか汲み取れないのが現状である。本人が何を望んで、どうしたいか、どの学校に行きたいか伝えることができればいいのだが、それもできないので親が決めなければいけないと感じている。 ・今、姉が通っている学校には特別支援学級があり、息子を受け入れられ

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<p>ない訳ではないと思うが、現在、そこにダウン症のこどもはいない。それもあって、息子にとって健常のこどもと一緒に過ごす方がいいのか、障害のあるこどもと過ごす方がいいのか、悩んでいるところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センターで、一生懸命活動しながら成長している息子を見ているので、そのような環境の方が息子は一番いいのかなとは思いますが、健常のこどもと関われないというのはどうなんだろうと、親として悩むところである。これから1年かけて、センターからのサポートを受けながら成長を見つつ決めていかなければならないと思っている。 <p>ここまでは、委員から頂戴した5つの質問をさせてもらった。今度は、もしこの機会に委員や市役所の職員に伝えたいことがあれば教えてほしい。</p>
保護者B	<ul style="list-style-type: none"> ・良かった点としては、県内でも公立の児童発達支援センターは数少ないと思うが、そのような中で、市内には川越市児童発達支援センターがあり、0～2歳は親子で通園できて、満3歳の4月からは母子分離で通園できる施設がある。そうした環境に置かれたことはとてもよかったと思う。また、カルガモの家でのサービスは他の市町村より充実していると思っている。 ・息子はこれまで入院期間が長く、NICU から10か月の間、入院していた。その後にてんかんを発症して、てんかん重積で緊急搬送されたことも2回ある。やはり基礎疾患があるようなこども達や医療的ケアが必要なこども達は、健常のこども達に比べると、今の状態よりも悪くなる可能性は十分にある。 ・実際、通園・通学バスに関して、私の息子は経鼻経管栄養だけなので、乗ることはできるが、もしまた体調が急変した時に、気管切開や在宅酸素が必要になったりすれば、もうバスには乗れないと思う。そうなった場合、私は今仕事をしているが、仕事をやめてずっとこどもに付き添いをしなくてはならなくなると思うと怖い。 ・私は2年前に保護者会の役員を務めており、その時に市に要望書を提出したことがある。今回のこのような意見聴取の場など、自分にできることはやっていきたいという気持ちでいる。 ・繰り返しになるが、親の負担が大きいのは、通園・通学支援に関することだと思う。周りに、バスに乗ると危ないかなと思うお子さんもいるが、自分で歩いておしゃべりもできるが在宅酸素を使用している子もいる。その子は、酸素を使用しているということだけでバスが一切使えないので、細かい点ではあるが、そういった点も見直していただきたいと考え

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
保護者 A	<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まさか自分が障害のある子を育てるとは想像もしていなかったし、妊娠中は健康で問題ないと言われ、順調に経過し、生まれてみて初めてわかったので、受け止めるまでに時間がかかった。退院したら日々子育てに追われるので、気づかないうちに感覚が慣れたと言った方が正しいかもしれない。実は、息子の上のお姉ちゃんも健常児ではあるが障害が何もない訳ではなく、片耳難聴等の障害がある。片耳難聴ではあるが、もう片方の耳はしっかり聞こえ、日常生活には問題がないため、障害児ではなく、特に何の支援もなく普通に学校に行っている。お姉ちゃんがそういう状況だったので、下の子も何もないということはないだろうと思いつながりながら妊娠期を過ごしていたので、生まれてきてやっぱりなという思いとお姉ちゃんよりも障害が重いということはショックだった。しかし、どうすることもできないので、あとは前を向くしかないと思いつながり日々子育てをしている。 ・おそらく事前に検査をして分かっていた親御さんはそれなりの覚悟をしていると思うが、生まれてきてから障害児だと告げられる親御さんは、言葉にできない思いで子育てをしているのだと思う。 ・障害のレベルも人それぞれで、同じダウン症でも、何らかの合併症で生まれて3か月で手術をするようなお子さんもいる。幸いにも、息子も合併症はあるが、心疾患は経過観察であるし、口唇口蓋裂があるがひどくはなかったので、2歳の時に手術を終えて今は経過観察という状況である。その他にもいろいろあるが、全てが経過観察で済んでいるのは本当に奇跡だと思っている。 ・ダウン症は合併症が多くて大変だと言われるが、息子は特になく、健康で風邪もあまりひかない。現在、健康に育ってくれているので、今日この場に来て、障害児を抱える親として皆さんに伝えられるかどうかすごく不安だった。 ・一方で、健常児であろうが、障害児であろうが、子育ては大変だと思う。やはり手がかかるし、予測できないことが起きるし、親御さんは気が休まらないと思う。20歳になっても親に迷惑をかける子はいらぬと思うし、いくつになっても心配や不安というのは、どんなお母さん、お父さんにも一生付きまとうのかなとは思ふ。 ・ただ、障害児を育てていてよかったと思うことは、一つ一つの成長がものすごく嬉しいことである。こんなことができたんだということが、とても嬉しい。健常で生まれてくるとあつという間に過ぎてしまうので、

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
会長	<p>上のお姉ちゃんは歩いたと思ったらもう4年生だという感じであったが、息子の本当にゆっくり着実に成長している姿を見ると、こんなにも成長しているんだということを、ゆっくりだが感じる事ができてとても幸せな気持ちでいられる。大変なこともあるが、その分幸せでいられることもあるということを皆さんにわかってもらえたらと思う。</p> <p>限られた時間であったが、大変実り多い話を伺うことができた。残り時間が限られているが、1～2分で、これだけは伺いたいという委員がいたら話を伺いたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、大人の障害者団体10団体が集まった障害者団体連絡協議会の会長をしている。お話を伺って、お子さんのことも非常に大変だが、実はこどもが大人になっても親は親であり、昨今の8050問題等がある。親自身はもう先が見えているが、こどもはまだ30～50代で、このこどもを誰がみてくれるんだと思っている親御さんが非常に多い。 ・障害者と一概にいても、ある程度分別が付く年代になって、後天的に事故等で障害者になった方は、本人が障害を納得したり、理解できたりするが、知的障害、精神障害の団体の方々は、親の立場で声を大きく発言されているという認識でいる。 ・私は障害者の施策審議会にも参加しているが、今日のお話を伺って、やはりまだまだ障害者団体としての要望が足りないということを感じたので、細かい点を含め、今後、いろいろ要望しなくてはいけないと思った。今年度は既に要望書を出してしまったが、来年度以降、他の団体と話し合い、もう少し細かく要望を出していきたいと思う。 ・もう一点、仲間を作りたいという話があったが、障害児や医療的ケア児の親御さんの状況を理解してくれる団体はある。そのため、何かあれば各団体とも話すし、相談にも乗るので知らせてほしい。
会長	<p>時間となったので、意見聴取を終わりにする。お二人には、忙しい中貴重な意見をいただき、感謝申し上げます。</p>
事務局	<p>大変貴重な意見を頂戴し、感謝申し上げます。いただいた意見は、今後の施策の検討に活用させていただく。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<p>事務局でこどもからの意見聴取も行っていることから、この流れで、まずは報告事項（１）について事務局から説明いただきたい。</p> <p>[報告（１）（２）]</p> <p>（１）こども等への意見聴取の実施について</p> <p>（２）こどもの居場所に関するオンラインアンケート調査について</p> <p>事務局より資料３に基づき、こども等への意見聴取の実施結果について報告するとともに、資料４に基づき、こどもの居場所に関するオンラインアンケート調査について報告を行った。報告内容の概要は以下のとおり。</p> <p>（資料３）</p> <p>小学校３校、中学校３校、高校１校、特別支援学校１校、大学４校を訪問し、こども等への意見聴取を行った。以下の５つのテーマにおける主な意見を紹介した。</p> <p>①こどもが市役所へ意見を出しやすくするために必要なこと・必要な環境</p> <p>②放課後や休日に過ごしたい場所</p> <p>③将来について不安に思うこと、また川越市にサポートしてほしいこと</p> <p>④参加してみたいと思える社会活動</p> <p>⑤ヤングケアラー事例認知の有無、および想定される支援</p> <p>（資料４）</p> <p>こどもの居場所に関して、公立保育所利用園児の保護者１，３１９人を対象に実施したオンラインアンケート調査の結果について報告した。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料３は、事務局が中心になって、市内の小中学校、高校、特別支援学校、大学に出向いて、意見を聴取してきた。もちろんこれが全てのこども達の意見ではないが、できる限り資料に落とし込んでいる。 ・ 資料４は、こどもの居場所に関して、公立保育園を利用されている保護者に対するオンラインアンケートである。８７．２％とかなり高い回収率である。 ・ これらの報告に関して、各委員より一言ずつお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ あくまで印象だが、先ほどの児童発達支援センターを利用されている保護者からのお話もあり、特別支援学校の生徒との意思疎通はもしかしたら難しい面があったのではないかと想像した。こども達の意見を聴取することはいずれにしても難しいところがあったと思うが、ここまでやっ

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>ていただいてありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に意見聴取に行った担当職員で、子ども達がこう言っていたが、本当はそういうことを言いたかったのではないのではと思ったことがあったら教えてほしい。 ・一点、資料3の3頁の一番上に、特別支援学校の生徒から、「対面で意見を聞いてくれる場合、優しい笑顔で対応してほしい。」との意見があるが、これはどうしてこのような発言になったのか気になった。 <p>・資料3を見て、聞けば子どもからたくさん意見ができるのだということがよくわかった。いろいろなところで、いろいろな方法で、子どもや若者が意見を言える場所が増えると、たくさんのいい意見が出てくるに違いないと率直に感じた。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・我々が子どもの頃は自由度がとても高かった。学校から帰ったら、市民グラウンドに行ったり、学校に潜り込んで校庭で勝手に遊んだり、市立図書館に涼みに行ったりと自由に遊んでいたが、宮崎勤事件がきっかけで、子ども達だけで遊ばせられなくなったと聞いたことがある。最近はこちらで子ども一人でトイレに行って被害に遭ってしまったという話もある。子育てをしている側からすれば、確率は少ないにせよ、被害者になる可能性もあるので、子どもだけで遊ばせることが非常に難しくなっている時代になったと改めて思う。 ・今はスマホを持っている子どもが多いので、例えば、子どもだけで遊びに行くと、QRコードをかざすと保護者が子どもの居場所がわかるというような公立の施設があるとよいのではと思った。 ・資料3を見ていると、子ども主体でいろいろ考えて話ができるのではないかと感じたので、ぜひ各学校の生徒会主体で、どのようなことが必要なのか子ども達の中から発想できるようなシステムを作っていただきたいと思った。 ・また、私の住んでいる大塚の辺りは、周りに公共の施設がないのだが、先日、コンサートに行った際に、その会場のエントランス部分の自由に使えるスペースで、卒園生の中学生2人が自習をしていた。夕方6時過ぎにそのような場所で自習している姿を目の当たりにすると、塾でも学校でもない勉強ができる環境・場所を市が提供することができれば良いと思う。 ・先ほどの医療的ケア児とダウン症のお子さんの保護者の方の話を聞き、児童発達支援センターは、だいたい人口10万人の都市に1つ必要だと

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>言われていることから、川越市は35万人都市であるので、施設が3つくらい本来あるべきだと感じた。必要とされる方々のためにあるべき福祉はもっと充実するとよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先ほどの保護者からの話を伺い、やはり生の声を聞くことは本当に大切だと思った。また、こども達からの意見聴取については、前回の分科会で山本委員が、こどもの意見はどこまで聞くかが難しいと述べており、自分もいったいどんな意見が返ってくるのかと思っていた。しかし、意見を全部読んだところ、自分本位の自己中心的な意見ではなく、自分達全体の意見を象徴するような、自分が代表なんだというのをきちんと自覚して、みんなのために伝えていこうという気持ちがよく表れていると感じた。 こども達はやはり自分の意見を聞いてほしいと感じているし、これからも積極的に伝えたいという意思がとても強いと思い、今後もこのような機会を作ることは大切だと感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 先ほど保護者の話を聞いたが、想像もできないほどの大変さを抱えているんだと改めて感じた。こども達からの意見を受け、こどもの居場所がとても大事だと感じた。ハードの部分のみならず、ソフトの部分の居場所が特に大事だと思う。 以前チャイルドラインという電話相談を受けたことがあるが、そこで、学校であったすごくよかったことの話聞かせてもらったことがある。その内容というのが、縄跳びを何回跳べたよという話だった。そういったことを話せる場所がやはり必要なのではないかと思う。友達同士という環境ももちろん必要だが、やはり人がそこに携わって、人が聞いてあげられる環境が、居場所には大事なのではないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 私は、労働組合の代表として出席させていただいているため、労働者の目線で意見を述べさせていただく。資料4の質問5「こども（小学1年生以降）の登下校時刻によって、仕事への影響があると思いますか？（複数回答可）」との質問に関して、勤務時間が短くなってしまおうとか、転職せざるを得ないという声があるが、私達の団体の中でも同様の声が相当数ある。特に学童に入るのに待機せざるを得なくて、本来であればフルタイムで働きたいが、どうしても短時間勤務になってしまうという声も聞く。そのような状況となると収入やキャリアを諦めざるを得なくなるということもあり、実際に働く中で、仕事と育児を両立することは、

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>一事業所だけでは限界がある部分も多いと思うので、両立へ向けて手厚い支援を進めていただければと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会から依頼があったので、私の方で、小学校3校、中学校3校に依頼した。川越市は地区が多いので、いくつかの地区に分けて、公的な施設が近くにある所とない所等、いろんな地区から意見を出した方がいいと思い選出した。 ・子ども達はいい経験をさせてもらった。時間は短かったが、思っていることを話すことができたと思う。市役所の人に話ができたといいことをとても喜んでた。 ・学校の研修でよく使われる資料の中で、財団法人が実施した先進6か国の18歳調査というのがある。自分の力で社会を変えられることができるかという質問項目について、「思う」と回答した割合が、先進諸国では高くなっているところ、日本は圧倒的に低い。自分たちが世の中を変えられるなんて、子ども達は思ってもいないと思う。18歳の時点でどうにかしようと思っても遅いと思うので、そこが義務教育のやるべきことなのではないかと、今学校の中でその議論がホットな話題となっている。 ・その調査結果を受けて、自分の力が社会や人のためになるのだという経験を、子ども達に多くさせることが義務教育に課された役割のはずであり、現在、そのために何をしていこうかという議論を各校で行っていると思われる。本校でも、中学校と連携して、この夏の研修でそのような内容を取り入れている。そのような側面からも、今回、小中学校の子ども達の意見を聞くという機会はとてもありがたかったと思う。まだこのような機会があることを望んでいる。 ・また、今回意見聴取で回答したのは、中学校では生徒会本部役員、小学校では計画運営委員であり、話がよくできて、頭の回転も速く、いわゆる学校の中で良い子と言われている子ども達である。本当に居場所のほしい子は、この子達だけではないと思う。 ・本校の子ども達は、家の近くの教会が居場所になっているし、開店したスーパーのちょっとしたイトインコーナーにお世話になった子どももいる。また、不登校の子ども達もやはり居場所を求めているが、学校に行っていないのに行っていいのかと思ってしまう、公的なみんなが集まるような所には行きたがらないようである。 ・前任校の時は、地域にある大人の障害者、高齢者、児童等の支援をしている事業所が、ユースプレイスという誰でも行っていい場所を開いてく

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	<p>れ、そこに通う子も多かった。公的なところがたくさんあれば良いのだが、そういう所に行けない子どももいるということを知ることが大事だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで本分科会では、障害ということにあまり焦点が当てられてこなかったが、今日保護者からの意見を聞いて、委員の皆さんも、大変だなと思われたと思う。しかし、大変なのはこどもの頃だけでなく、その子ども達が大人になっても親は親であり、こどもの面倒を見ることが必要である。そのことも含め、障害福祉課等と連携していかなければならないと思う。 ・また、学童保育の指導員をやっている妻から聞く話では、妻の勤務する学校では、100人を超える児童を受け入れるにあたり、教室が2つしかない上、アルバイトを含め指導員を募集しても応募がなく、成り手がないというのが現状のようである。そのため、学童保育以外のそれぞれの支援の場所でも、やはり人手が足りない、予算が足りないということがあると思うので、そのような状況を考慮しながら、計画を策定していかなければならないと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの保護者へのヒアリングも含めて、当事者の方達に直接お話を聞くという取組みは、準備も大変だったと思うが、本当に素晴らしいと改めて感じた。意見聴取についても、本当に皆さん一生懸命応えてくれたということがわかり、インタビューされた方も真摯に子どもに向き合いながら質問されたのだろうということが伝わってきた。 ・学校のサンプリングが気になったが、先ほど御説明くださったので、理解できた。また、今回聞くことができなかつたお子さん達の声をどのように拾っていくのかということもとても大事だと思う。 ・また、今回の意見聴取の際に、市としてどのような目的で意見を聞くかということをごども達に説明したと思うが、聞いたからには、フィードバックが大事である。聞きっぱなしで何となく終わってしまうと、こども達の中に残念な気持ちが残ってしまうと思うので、今後こども達にどうフィードバックしていくのかについて、どのように考えているのか教えてほしい。 ・あと、単純に個人的な関心だが、とても意外だったなど、想定外の回答があったら教えてほしい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に保護者の方からお話を聞いてよかったが、障害の度合いによって、意見も異なると思うので、多くの人に意見を聞くことも大事だと思う。 ・通常学級にこどもを入学させたいという親がたくさんいるという話を聞いたことがある。受け入れる側もそれなりの準備が必要だし、恐らく今後、保育園や幼稚園でも受け入れる状況が出てくると思う。そのような時に、実際にこどもを育てている親御さんから意見を聞いて、反映し、より良い保育や教育につなげていくことができればとても良いのではないかと考えている。 ・医療的ケア児や障害のあるこどもの通常学級への受け入れがなかなか進んでいない現状がある。自分の身近にこのようなこどもがいないために、どこか他人事になってしまうことが原因ではないかと感じているので、もっと親御さんと情報交換ができる場があれば良いと思った。 ・また、こどもへの意見聴取について、勉強する場所がほしいという意見が多く書かれている。先日、狭山市にある駅前のととても素敵な施設を見学させてもらった。川越市では、新しい施設を作るとお金がかかるので、既存の施設を使って、こどもの居場所となるような取組みができればよいと思った。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、保護者からの生の声を聞くことができ本当によかったと思う。計画を作る上で、参考になって取り入れることができる部分も多いのではないかと感じた。 ・大人でもそうだが、こどもにとって市役所は遠い存在だし、用がなければ行かないところだと思う。そのため、こどものうちから、自分が市役所に意見を出し、それが施策に反映されるかもしれないという経験を積んでいると、社会参加の側面からも、大人になった時にも活かしていけるのではないかと感じた。 ・自分がこどもの時にはこのような体験は恐らくなかったと思う。こどもへ意見聴取し、それを基に施策を検討していくことはとても素晴らしい取組みだと思うので、今後も続けてもらいたいと思った。 ・また、今のこども達、Z世代の感覚も取り入れていかないといけないと思う。そして、居場所はやはり課題であり、必要だと思うので、それをどう政策として取り入れていくのか考えていく必要があると思う。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他の委員の発言にもあったが、認可保育園においても、医療的ケア児をどう受け入れるかという問題は、将来関わっていく必要のある領域だと認識している。ある自治体では、新しく保育園を作る時に、医療的ケア

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>児を受け入れることを必須としている。今回のような機会を作って、当事者が本当に何に困っているのか、我々はもっと勉強していかなくてはいけないと痛感した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの居場所については、私どもの園では、ホームページでもInstagramでも、常時ボランティアや見学を募集しており、夏休みには、保育科の学生、小中学生、高校生など誰かしら保育園に来ている。そういうボランティアで来る子ども達の中には、なかなか学校に行きづらい子や、クラスではどちらかというツッパリ系でみんなから煙たがられてる子もいる。ところが、そのような子たちにも、保育園の園児は関係なく、積極的にお兄ちゃん、お姉ちゃん遊んでと近づいて行く。そうすることで、そのような子たちも、自分が必要とされている、求められているといった感覚を持つことができてくる姿を今まで見てきている。 ・ こどもの居場所ということであれば、ぜひ保育園や幼稚園など、受け入れ可能な園であれば、どんどん受け入れていただきたいと思う。そこでいろんな人と触れ合うことで、高校生ぐらいだと、将来の自分に対する職業意識も芽生えてくるのではないかと思う。 ・ そのような意味でも、今回川越市がこどもに意見を聞いたのはとても素晴らしいことだと思う。こどもにとって市役所は実際何をやっているのかわからず、敷居が高く感じてしまうと思うが、このようなことをきっかけに、関心を持ち、市役所を身近に考えてくれるかもしれない。 ・ こどもの居場所づくりは非常に大切だと思うが、新しく公的な施設を作ることを検討することも必要だが、既存の施設を活かすことも大事だと思う。そのような検討を経て、いろんな居場所ができると、こどもにとって良いと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校、特別支援学校、大学へ実際に意見聴取に伺った。特別支援学校の生徒からの意見で、「対面で意見を聞いてくれる場合、優しい笑顔で対応してほしい。」とあったが、これは、こどもが実際に市役所等において対面で何か意見を言う時を想定しての意見であり、意見を言いやすい環境として、笑顔で接してほしいという趣旨だった。 ・ 委員からの話にあったとおり、中学生については、各学校の生徒会役員ということもあり、皆とても良い子だったという印象。意見聴取の際も、冒頭では勉強する場所が欲しいという堅い意見が多く出たが、時間が経つにつれて徐々に打ち解け、カラオケ等の遊び場がほしいといった意見も出てきた。このような取組みは引き続き行っていく必要があると個人的に感じている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの居場所に関しても結構意見をもらっている。先日、少年の翼事業で研修を行っていた中学3年生から、川越市の課題とその対策について意見をもらったが、全班が学習する場が欲しいと言っていた。 ・ 現在、教育委員会や公民館と調整を進めており、公民館の空いている部屋を開放して、こども達が自由にそこで勉強したり、談笑したりすることができるようにしたいと思っている。今年度中に、1～2か所は必ず実現したいと考えており、現時点では、大東市民センターと霞が関西公民館とで実施しているところである。こども達から出た意見について、実現しないといけないと思っている中、この居場所。 ・ また、先ほど委員からも発言があったように、こどもから出た意見について言いつばなしにはさせず、市としての考え等をこども達にフィードバックしたいと思っている。行政として、こども達の意見をどのように形として実現するか、ソフト面とハード面とあるが、できる限りのことはやっていきたいと思う。
会長	<p>現状を学ぶという前半部分に関して、皆さんから意見もいただいたところで、これを踏まえて今後検討していきたい。続いて、報告事項3に移りたい。</p> <p>[報告(3)] 川越市保育所等の待機児童の状況について 事務局より資料5-1、5-2に基づき、川越市保育所等の待機児童の状況について報告を行った。報告内容の概要は以下のとおり。</p> <p>(資料5-1、5-2) 待機児童数は、昨年度に比べて2人増加し、10人となっている。また、就学前児童数が減少する一方、認可保育所等への申し込み児童数は増加している旨、報告を行った。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料5-2の(3)によると、待機児童は地域別にみると福原、霞ヶ関、名細地区とかなり地域が特定されていると理解した。どうしても場所によってうまく供給できないということなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年も福原地区に待機児童が見られており、その要因として、地区別に見ると、当該地区において保育所の数が少ないということもある。一方で、昨年は、当該地区に認定こども園が1園増え、そこに入園するこど

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<p>ももいたが、現状、まだ待機児童数として現れているという認識である。</p> <p>ここから今日の審議事項に移りたいが、資料1「第2回分科会での意見について」については、時間の都合上、皆様に読んでいただきたい。それでは、資料の6、7、8の説明を事務局よりお願いしたい。</p> <p>4 議題</p> <p>議題に先立ち、事務局より資料2「川越市の子どもを取り巻く状況（関連する基礎データ）」について、計画に掲載するデータについては精査中であり、現状の課題につながるようなデータを掲載していく予定である旨、説明を行った。</p> <p>[議題（1）]</p> <p>川越市こども計画の策定について</p> <p>事務局より資料6、7、8に基づき、川越市こども計画の策定について説明を行った。説明内容の概要は以下のとおり。</p> <p>（資料6・資料7）</p> <p>資料6「国の方針及び「川越市こども計画策定に向けた調査」を踏まえた次期計画へ新たに掲載する事業等の考え方」において、国の方針や昨年度の調査から出た主な課題とその課題へ対応するため新たに掲載する事業について説明するとともに、資料7「川越市こども計画の施策体系案に基づく事業一覧（案）」において、施策体系に紐づく各事業について説明を行った。</p> <p>（資料8）</p> <p>前回の分科会での委員からの指摘を受け、該当箇所（計画の視点の4つ目の○）を修正した旨説明を行った。</p>
会長	<p>・資料6は、昨年度の調査から浮かび上がった課題に対して新たに含めたい事業を説明しており、具体的な事業として資料7に反映している。資料8については、現行計画からの変更箇所に下線が引いてある。これらに基づいて今後の作業を始めたいとの事務局からの提案があるが、何か質問・意見はあるか。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育は現在とても利用者が増えていると思うが、幼稚園の預かり保育も夏休み中は利用者が増加しており、今後もっと増加した際に、クラスに担任一人だとこども全員に目が届きにくくなるなど難しい状況が起きてくる。幼稚園は文科省の所管だが、預かり保育という福祉的なこともやっている一方で、学校は教育機関であり、学校の授業が終わって、その後、福祉事業としての学童保育という扱いになっている。 ・新型コロナウイルス感染症の蔓延で学校閉鎖になった時に、感染拡大防止の観点でいえば、本来学童保育についても閉鎖すべきではあったが、厚労省の所管である学童保育については、同省から「原則開所」との要請を受け、閉鎖できなかったという話があった。 ・そのような中で、なぜ放課後等デイサービスを利用するためにわざわざ校庭が広くて環境的にしっかりしている学校から離れて、車で送迎するというリスクを負ってまで移動する必要があるのか個人的に違和感がある。 ・また、少子化によって教室が余っているのであれば、本来あるべき課外教室という形で、こどもの体験教室ができるととても良いと思う。本来の課外教室は、指導者の言うことを聞く場ではなく、こども達自身でもっとこれを学びたい、取り組みたいと思うことが始まりだったと思う。こども達が主体的に取り組める環境作りが必要だと思う。また、引退された先生が、算数の楽しい学び方を教えてくれたり、西武ライオンズの選手による野球教室やプロバスケットボールの選手が来て体育館でバスケを教えてくれたりと、学童保育だけ、課外教室のような形で、その時間にそこに行けばこんな体験ができるとなればとても面白いと思う。 ・「こどもの体験活動等への参画支援」について、学童保育と併せる形を取って、学童を利用していないこども達も学童保育での体験活動に参加することができれば一石二鳥となるかと思う。 ・また、こどもの体験活動等への参画支援に紐づく事業の中で「子どもの文化芸術体験事業」があるが、先日、出席した会議の中で、予算の関係で中学校の合唱祭を開催できなくなる可能性があるという話を聞いた。福祉分野では予算が付くが、教育委員会の方で必要な予算が付かないという状況とならないよう、うまく教育機関と福祉、また部活動と課外活動等が連携する形で、こども達が発表する機会をなくさないようにしていただきたいと思う。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私の意図を汲んで施策体系の計画の視点を修正してもらってよかった。 ・1つ質問だが、こども計画の中のこどもには、児童養護施設や里親の元で暮らしている等、社会的養護のこども達も入っていると思う。そのこども達の視点は、計画のどこに含まれているのか。市としてどのように考えているのか教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標6の施策目標(1)～(3)の中で包括的に対応していきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども」の中で、特に分ける必要はないと私も考えているが、どうしても「家庭」というワードが出てしまうと、自分もそうだが、一般的な家庭を連想しがちであるので、別の環境下で暮らしているこども達のこととも織り込みながら、この計画が作られていくと良いと思う。
会長	資料8については、前回の皆さんの議論・意見を反映したものとなっているので、こちらで了解いただき、作業に入りたいがよろしいか。
委員	異議なし
会長	施策体系は了承いただいたが、これで完全に確定ではなく、最終案ができる段階で確定となる。とりあえず、これで事務作業を進めていきたい。
事務局	<p>誰一人取り残さないこどもまんなか社会を実現していくために、本日は、保護者から貴重な意見も頂戴した。計画を作ることが目的ではなく、計画を作ってそれを実行していくことが目的だと思うので、しっかり進めていきたい。</p> <p>5 その他</p> <p>事務局より事務連絡を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本分科会の各議題等への意見や質問等がある場合、会議シートにて、8月23日(金)までにメール、郵送、FAXにて提出をお願いしたい。 ・第4回分科会は10月11日(金)、会場はウエスタ川越の南公民館内の会議室を予定している。 <p>6 閉会</p>